

令和5年度上大久保中学校だより

# 上中だより

## 3学期特別号

令和6年3月26日(火)発行

## 学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 Tel.855-3901

<http://kamiokubo-j@saitama-city.ed.jp>

## 進級に当たって!!

校長 <sup>たかく</sup> 高久 <sup>まさゆき</sup> 正行

本日、修了式を迎えました。保護者の皆様におかれましては、本校の教育活動に対し、多大なるご支援とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。昨年5月の新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことに伴い、多くの行事等が制限なく行える1年となったことは大きな転換期となりました。生徒の取組に対する意欲や積極性がより高まるとともに、保護者の皆様にお子さまの活躍する様子を見ていただけたことは大変良かったと思っています。来年度は、生徒が様々な場面で生き生きとより活躍できる学校を目指し、教職員一同取り組んでまいります。

さて、3月15日(金)に、5年ぶりに全校生徒が一堂に会した第44回卒業証書授与式を行いました。卒業生や在校生の式に臨む姿勢や式歌・校歌を歌う様子は大変立派で、ご来賓並びに地域の皆様からはたくさんのお褒めのことばをいただきました。

以下に、式辞の中で述べた、卒業生へのはなむけのことばの一部を紹介します。

「一期一会(いちごいちえ)」は、人との出会いの大切さを示すことわざとしてよく使われていますが、このことわざを世間に広めたのは、江戸幕府の大老だった井伊直弼だと言われています。彼の言葉を現代に当てはめると、「初めて会う人だけでなく、家族や友人、学校や職場の人たちといった毎日会う人や、度々会う人にも今日が最期という気持ちで、誠心誠意接することが大切であり、出会えたことに感謝なさい」となります。これからの時代は、先行きが不透明で、予測が困難な時代であると言われています。だからこそ、レジリエンス、すなわち、困難に負けない力、回復力、しなやかさが必要になります。そして、レジリエンスを高めるためには、多様な人々とのかかわりが重要です。新型コロナが蔓延した4年もの間、人と人のかかわりがとても薄くなったように感じています。デジタル化の発達により、多くのコミュニケーションツールが使われ便利になった点もありますが、コミュニケーションの基本は「フェイストゥフェイス」だと思っています。言葉だけでなく、相手と直接顔を合わせ、表情を見たり感情を伝わったりすることで、よりお互いを知ることになるのではないのでしょうか。(中略)いろいろな人たちと奇跡のように巡り合っているからこそ、これから出会うであろう人々との一つ一つの出会い、そして家族や友人をはじめとした今も皆さんの周りにいる人たちとの交流を大切に、感謝の気持ちをもちながら接して行ってほしいと思います。



この言葉は、卒業生だけでなく、1・2年生にもぜひ聞いてもらいたいものとしても話しました。

また、本日の修了式の式辞では、

中村天風(なかむらてんぷう)という人物の、「できないと思うものはできない。できると信念することは、どんなことでもできる。」つまり、できないと思っているからできないのであって、できると固く信じて疑わなければできるようだと言われたのです。実際、全ての目標が固く信念すれば達成できるとは思えませんし、そんなにうまくいくことばかりではないでしょう。それでも、「達成できない」と思っているよりも、「達成できる」と思っている方が、達成できる可能性は高くなるのではないのでしょうか。また、固く信じて疑わないほど日頃から目標のことを考えていけば、おのずと目標を達成するための行動にも真剣さが増すでしょう。

という話もしました。

これらの言葉を心に刻み、生徒一人ひとりが新たな希望を胸に学校生活を送ってくれることでしょう。4月から始まる新たな学年での活躍を期待してやみません。ぜひ、保護者の皆様からも、お子さまに対して温かいお声かけをしていただけると幸いです。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。1年間本当にありがとうございました。